

## 長 楽 寺

《宮 本》

人皇五十二代、嗟哦天皇、弘仁十二辛卯年七月十日、弘法大師は、当村に巡錫して、当山を亀居山と号し、しばらく足を止めた。

山上に巖石があつて、不動の梵字一字出現したので、奇しき靈地として恐れ畏み、護摩修業を行った。のちに南麓の地を選び、一字を建立して亀居山宝王院長光寺と名づけた。

第五十六代清和天皇、貞觀五年、國中、天変地変が多く起り、人民が多く死んだ。先年、鎮守府將軍、文屋綿曆、蝦夷征伐の際、蝦夷人をことごとく殺したので、その怨靈のなせる業と思ひ、國中の社寺に祭典を行わせた。衆を集め、読経した場所を長光寺原という。經典諸具を納めた所を経塚と呼んでいる。

第七十代後冷涼天皇の天喜四年、陸奥の豪族、阿部貞任反き、源頼義、征夷大將軍となり、義家を従ひ、東北に下向した。しかし、武運つたなく、敗北して当山に退き、梓衝神社に武運長久を祈願したところ、荒鹿いづくからか走り来て、一前面に膝を屈した。当社御守本尊の御加護の靈驗と喜び、一



長楽寺石門